

— 佐乃一組の浜松まつり —

昨年度の「さなる情報室」での浜松まつりの記事は、県住を含む2～6丁目の般若連の様子取材して掲載しました。その冒頭、1丁目の「佐乃一組については別の機会に取材する予定」と記しておきましたので、本年度は佐乃一組での様子をお伝えします。

◇前夜祭(5月2日、土曜日)



まずは「吾平」
店前で、その後
は「中村屋」前



朝7時、入野地区凧揚げ会（義廣組）主催で甚五郎碑祈願祭の式典が挙行政され、佐乃一組を含む14町の凧揚げ会が集い、浜松まつりでの無事息災を祈りました。碑の左手には各組用の御弊（ごへい）が置かれ、お払い（修抜の儀）のあと各組が持ち帰りました。佐乃一組では、ここで頂いた御弊と五社神社で頂いた御弊とを屋台や練りの先頭に掲げました。

佐橋甚五郎翁之碑の謂われ

翁之碑は、西彦尾公民館近くの義廣組小屋の横にあり、木製告知板には次の如く記されている。

『江戸時代に書かれたという酒井真邑の記録「浜松城記」に依れば、今からおよそ四百年前 永祿年間、ときの引馬城(浜松城)主 飯尾筑前守の長子義廣公の誕生を祝い、入野村の住人佐橋甚五郎の発案で義廣公の御名を大凧に記して城中高く揚げた と記されている。即ち、古来より引馬(浜松)一円における凧習として初の男子出産を祝し、その在家より祝凧を送りこれを揚げるという民俗行事が代々うけつがれ、やがて浜松凧揚げ合戦に発展したものである。之に佐橋甚五郎翁の幼な子の健やかな成長を希う心を茲ゆかりの地に碑を建立し顕彰するものである。昭和 53 年 4 月吉日 顕彰者一同』

1日目の午前中開催の凧揚げへバス2台で出発、御殿屋台も夕方6時半に出発。練りも シダックス店前など数カ所を回りました。佐鳴台一丁目の佐乃一組は、昭和 62 年に歴史ある西組(西伊場)から、学校区が線引きされた機会に「佐乃一組」として分離独立したものです。因みに、県住を含む2～6丁目から成る般若連は昭和 60 年に結成されました。この佐乃一組では、一矢会(凧揚げ愛好会)を中心に、子供会、鳴一会(老人会)、自治会の四者が一体となって浜松まつりを 盛り上げています。

◇2日目(5月4日)



入念な打合せの後、お囃子連を乗せて板屋町交差点を駅方向へ向かって出発。



駅近く、右側通行で行進。右写真の左後方ビルは名鉄ホテル、前方はメイワンです。



藤森稲子ちゃん（左）と佐藤七海君（右）が、シダックス店横でご両親と共に初子の祝いを受けました。左側の写真はシダックスに貼られた大凧のレプリカ。御殿屋台も中央での引き回しから戻って合流し、皆で祝福。

◇3日目(5月5日)

3日目は生憎の雨。
中央での屋台引き回しは中止となりましたが、午前の凧揚げや町内の練りは元気に行われました。
佐乃一組の凧揚げの様子を編集子に代わり(?) 中日新聞6日朝刊で紹介してくれました。





浜松まつりの全行事を無事終了。佐乃一組会所前での解散式は5日雨のなか夜中近くとなりました。ご苦労様でした。

(H21.05 編集子)